

障がい学生支援

<事業概要>

大学コンソーシアム京都では、2001年度から、障がいのある学生支援の在り方について検討を始め、2004年度から「ノートテイク養成講座」を、2016年度からは「パソコン(PC)テイク養成講座」を開講しています。

また、加盟校の障がい学生支援窓口を中心としたネットワークとして「障がいのある学生支援に関する担当者会議」を2002年度から組織し、意見交換や勉強会等の場としてきました。担当者会議は2011年度まで開催し、今後の検討期間を経て、2015年度からは「関西障がい学生支援担当者懇談会」(KSSK)を主催しています。

<主な活動項目>

- ◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会 (KSSK)
- ◆ ノートテイク・パソコン(PC)テイク養成講座
- ◆ 障がい学生対応における施設対応
- ◆ 大学障がい学生支援懇談会

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)／減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

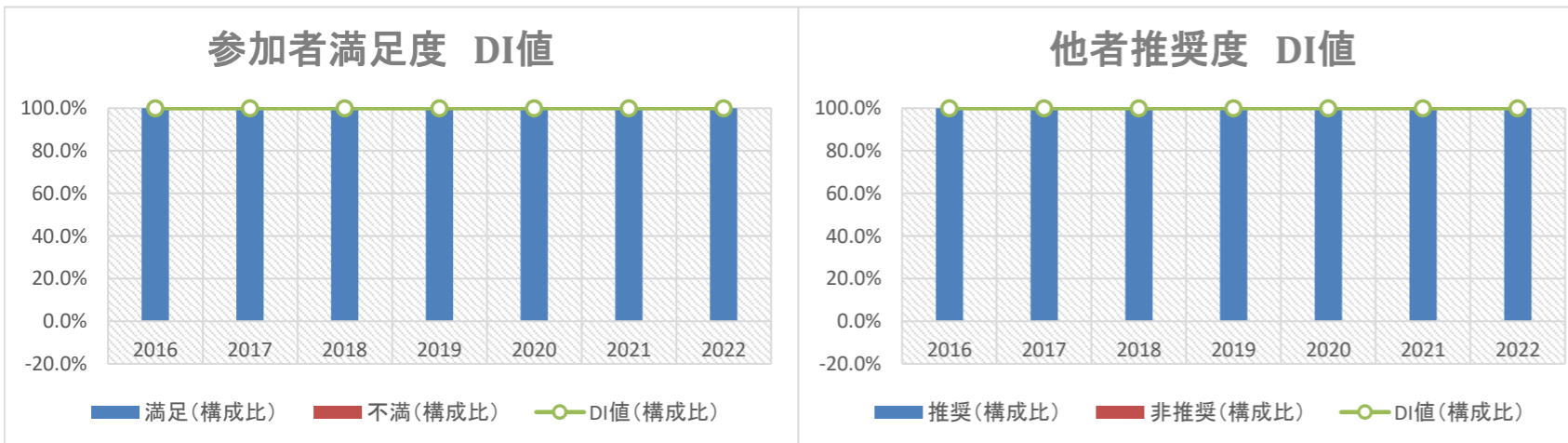
<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会 (KSSK)

<事業概要>

関西における障がい学生支援担当者のネットワークづくりとして、「関西障がい学生支援担当者懇談会」(略称KSSK)を開催しています。KSSKはこれまで、教職員有志による世話人により運営されてきましたが、大学コンソーシアム京都が主催及び事務局を担うことで組織的な運営体制を実現しています。

KSSKの基本理念としては「実務者目線」でざっくばらんに話し合うことを目的としており、各大学の事例報告や少人数による分科会など、障がい学生に関する支援の情報交換や現場の悩みの共有など、関西地域におけるネットワークとして機能しています。



参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	94	94	75	76	64	76	73
不満(名)	0	0	0	0	0	0	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107	91	100	102	112

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	98	89	78	76	64	76	73
非推奨(名)	0	0	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107	91	100	102	112

<参加者の声>

- 障害学生支援者の仲間の繋がりが出来たのが一番だと思います。
- 各大学ごとに体制や風土など異なるが、課題としては共通することが多く、直接顔を拝見しながら考えを共有できる貴重な場だと感じた。また、日ごとにアップデートされる障害学生支援について触れることで、一度立ち止まり自身の考え方を振り返るよい機会になった。
- 同じ立場で支援・コーディネートされている皆さまのお話を聞き、共通点や参考にしたい点などを学べる。
- 学生数等大学の事情が異なるため、他の分科会に参加されている大学の担当者様との交流の機会があるとありがたいです。（懇親会があるとかなり改善できると思われます。）
- 今後分科会に複数参加できるような、余裕のある時間設定が出来ればと感じました。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 話題提供では、障がい学生支援体制が整備段階である大学が多いことから、障害者差別解消法の改正をはじめとした障害学生支援の周辺的な動向を整理する機会となるような内容で実施した。
- オンラインでは担当者間の懇談が難しいとの意見が多く、参加さやが対面で話すことができるようハイブリッド開催とした。

【総括】

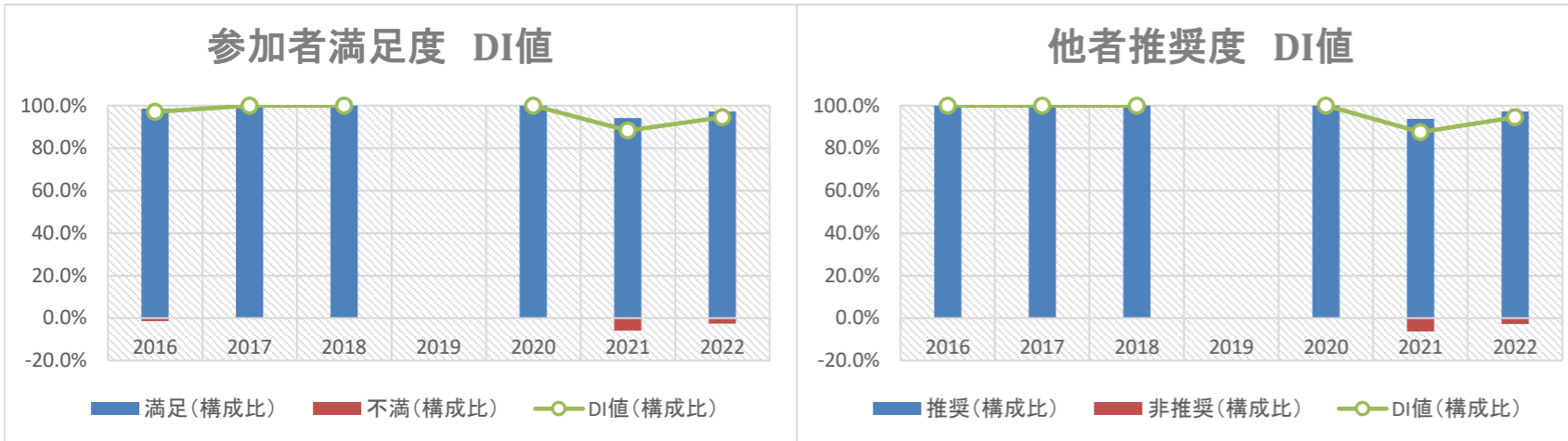
2022年度は前年度より参加者からの対面での開催を希望する声をもとに対面での開催とした。話題提供は講師が遠方の方であることからオンラインでスクリーンに投影し、参加者は対面とし、懇談会終了後名刺交換等の時間を設けた。

参加者からは今まで学外との繋がりがなく、情報を得る手段がなかったため大変ありがたい機会であったなどの声が多く見られた。

◆ノートテイク・パソコン（PC）テイク養成講座

<事業概要>

近年、大学において、聴覚障がいのある学生が多く学んでいる中、講義の「情報保障」が求められています。その対応として代表的な方法が、講義の情報を聴覚障がいの学生に伝える「ノートテイク」「パソコン（PC）テイク」です。ノートテイク・PCテイクの養成は各大学にて普及してきましたが、その指導方法やノウハウの蓄積などが不十分の大学も存在します。また、テイクの経験不足や人材確保など様々な悩みを有する大学も多く見受けられます。本講座は、テイクとその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義、実践を通じて、少しでも多くのテイクを養成し、ノートテイク・PCテイクに関するコミュニティを構築することを目的に開講しています。



※2019年度は中止

<参加者の声>

- 当事者の方、支援者の方両方からいろいろな実際の現場の様子や心情を聞くことができた。
- 実際にテイクをしている側、サポートを受けている側、支援活動をバックアップしている側、それぞれの活動に対する思いや工夫を一通り聴くことができたから。
- 具体的なノートテイクの養成方法などがわかればさらに良かった。
- 質疑応答がライブ進行であったが、事前に実施してエッセンスをまとめて発表してほしい。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 専門の講師の方に事後アンケートの結果などを共有し、次年度以降の参考になるようにした。

【総括】

2022年度は技術養成講座ではなく、各校における養成講座の開き方について検討する機会を作ることを目的とし講演会を開催した。多くの大学が夏季休暇中ということもあり、また、支援を受ける学生、支援をする学生の思い、意見を聞くことができる機会として、昨年度の22名に比べ41名と多くの方が参加となり関心の高さが伺えた。参加者からは「実際に情報保障を利用されている学生さんとサポーター学生のお話を聴く機会がめったにないためとても良い経験となりました。」「本学の所属キャンパスではノート・PCテイクを実施していないため、まず第一歩として「ノート・PCテイクはどんなものか」と、その実例を知るためのよい機会になりました。」などの声も寄せられ、目標は、達成できたものと考えられる。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	67	44	15	中止	16	16	36
不満(名)	1	0	0		0	1	1
満足(構成比)	98.5%	100.0%	100.0%		100.0%	94.1%	97.3%
不満(構成比)	-1.5%	0.0%	0.0%		0.0%	-5.9%	-2.7%
DI値(構成比)	97.1%	100.0%	100.0%		100.0%	88.2%	94.6%
参加者数(名)	77	58	17		22	22	41

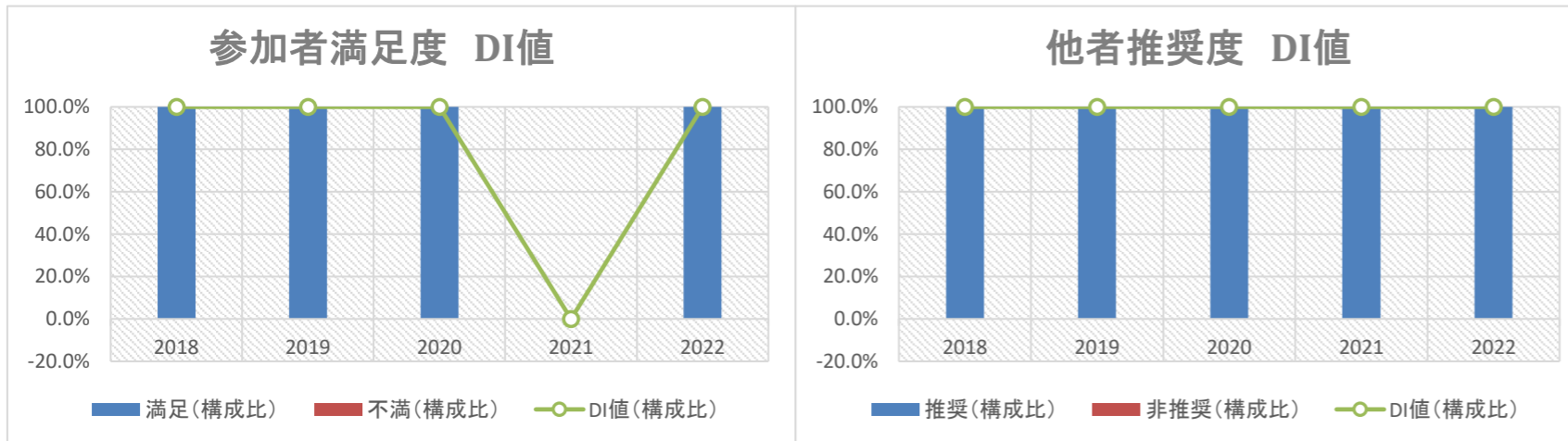
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	55	43	14	中止	16	15	35
非推奨(名)	0	0	0		0	1	1
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	93.8%	97.2%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	-6.3%	-2.8%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	87.5%	94.4%
参加者数(名)	77	58	17		22	22	41

◆大学障がい学生支援懇談会

<事業概要>

2016年4月に施行された「障害者差別解消法」を踏まえ、加盟大学からもニーズが高い障がい学生支援に関する事業に取り組んでおり、障がい学生支援に関して、高等学校や特別支援学校と大学とがつながりを持つ機会が少ないという現状を鑑みて、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的として懇談会を開催しています。



※2021年度は参加者満足度DI値に係る項目の回答を求めなかった。

<参加者の声>

- グループテーマをいくつか設定して、その中で興味がある話題を選べるとありがたいです。
- 司会者の発言は的確でしたが、全体を通して司会者の発言時間が長かったと思います。
- 実際に障がいをもつ生徒が入ってきて、この懇談会に参加することができました。そういった生徒のいない学校でももっと広めていくべきだと思います。高校の保健部長や養護教諭に参加してもらっては、発達障がいと思われる生徒も最近は多くなってきています。特に進学を考える場合は早くからの相談が必要ですので、広報が必要と思います。
- 別グループだった大学の先生とも繋がりを持ちたかったので、全体での自己紹介や名刺交換ができる時間があればありがたいかったです。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 昨年度までは12月に開催していたが高校からの参加が難しい時期であるとの意見から夏休み期間中に開催することとした。

【総括】

参加者からは高い評価をいただき、開催の趣旨、目的に沿った懇談会を開催できたものとする。

参加者満足度

	2018	2019	2020	2021	2022
満足(名)	36	18	13	-	34
不満(名)	0	0	0	-	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
参加者数(名)	44	28	31	26	53

他者推奨度

	2018	2019	2020	2021	2022
推奨(名)	35	19	13	9	34
非推奨(名)	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	44	28	31	26	53